

天文同好會觀測部月報

彗 星 課

山 本 一 清

近頃の彗星だより

やはり依然としてニウジミンミフォルブスミの二彗星が見えてゐるだけである。ペラインやジャコビニについては何の音沙汰も無い。

ニウジミン彗星の軌道は、パワー・キリス兩氏が最初に算出したもの(I.A.U. 回報 227), エベル氏のもの(同228), パワー・キリス兩氏の改正値(P.A. 368, p. 473), エーベル氏の改正値(I.A.U. 回報232)及びクロムメリン老のもの(B.A.A. 回報78), 等が今までに發表されてゐるが、其の中の最も信頼し得るものとしては、

| | |
|---------|--------------------------|
| 近日點通過 | 1929年六月28 ^日 2 |
| 軌道面の傾斜角 | 3° 41' 4" |
| 軌道の離心率 | 0.585 |
| 週期 | 10.49 |

であつて、多分、土星族中の一新星である。週期が木星の公轉週期に近いので、軌道形の攝動に關し、興味ある問題が提供されるだらうと思はれる。目下の天空位置は「やぎ」座の東邊を順行してゐる。光輝は八月初め頃13等級であつたが、其の後衰へて、今は16等級ぐらゐであるから、最大口径の望遠鏡でも觀測は困難である。

フォルブス彗星は、ウド氏(I.A.U. 回報229), インネス氏(同232), ドウソン氏(同 233)及びウド氏の改正値(同 234), クロムメリン老(同235)等の算出した軌道がある。ウド氏ミクロムメリン氏の改正値は下記の通りで、これが最も確からしい。

| | | |
|--------|----------------------|---------------|
| 近日點通過 | 1929年六月24.714 (宇宙時刻) | 同6月25.4941 |
| 近日點の引數 | 257° 44' 9."0 | 258° 46' 3."7 |
| 昇交點の黃經 | 26 13 25.8 | 25 47 2.08 |
| 軌道の傾斜 | 4 35 39.7 | 4 36 1.95 |
| 軌道の離心率 | 0.553684 | 0.555112 |

| | | |
|---------|---------------------------|---------------------|
| 軌道の長半徑 | 3.403324 (對數[1 0.531903]) | |
| 近日點の距離 | 1.518588 (κ 0.181442) | 1.524648(0.1831695) |
| 平均毎日運動角 | 0.°15698 | |
| 公轉週期 | 6年2786 | 6.年34422 |

之れで見るに、純然たる木星族の彗星である。東京の神田氏は之れが1894年のデニコ・スキフト彗星の軌道に似てゐることを指摘してゐる。又、英國のクロムメリン老は此の星が1884年の第二彗星(バーナード發見)の軌道に似てゐると言つてゐる。此の星は今「みづかめ」座の中を順行してゐるが、光輝は11等級ぐらゐである。

天文教室大勝ス!

我が天文學教室には從來多くの Sportsman が居られたが、九月以來晝食後の休憩時を利用して、Pitching や Batting が盛んに行はれる様になつた。しかるに十一月初旬、物理學教室から試合の申込に接したので、member は異常に緊張して、練習も熱心さを加へて來たが、遂に十一月十六日(土曜)紺碧青く澄んだ秋晴れの日、北白川東方文化研究所敷地に於て試合は火蓋を切られた。

我軍は先攻劈頭より猛打を浴せ第一回既に一舉八點を奪ひ以後毎回を追ふて得點を増し、終始敵を壓迫したが、反之、敵は我が投手の好投に遂に機會を覘ふを得ず。我が好守に苦しめられたが、第五回に入る頃より夕薄は四圍を蔽ひ初めて球の判別容易ならず、第五回を以て Score を終り、二十四對八を以て遂に我軍の大勝に歸した。

當日の我軍 Member 及 Score を示せば下の如し。

| 投捕 | 1 | 2 | 3 | 遊 | 左 | 中 | 右 | 回数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 計 |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|----|
| 上今小 | 竹 | 能 | 山 | 稻 | 千 | 森 | | 天文 | 8 | 0 | 4 | 5 | 7 | 24 |
| 谷井林 | 田 | 田 | 村 | 葉 | 田 | 川 | | 物理 | 0 | 2 | 2 | 1 | 3 | 8 |

試合開始 午後3時30分 — 5時10分 終了